

高木政務官記者会見録

(平成27年10月10日(土) 16:12～16:18 於) 岩手復興局)

1. 発言要旨

昨日付で内閣府政務官兼復興大臣政務官を拝命いたしました。復興大臣政務官のほうは、特に岩手復興局に関わる事項を担務とするということで、その翌日、昨日の今日ですけれども、早速高木大臣に帯同して達増知事の要望を伺いに、ここ盛岡にやってきました高木と申します。大臣と同じ名字で政務官の高木でございます。

先ほど大臣からお話もありましたように、安倍内閣の東日本大震災からの復興というのは最重要課題でございます。ここ岩手も大震災により、いまだに2万4,000人もの方たちが応急仮設住居に生活して、不便な生活を余儀なくされているという状況でございます。

この4年7カ月の間で復旧・復興というのは一定程度私は進んだと考えておりますけれども、まだまだこの住宅再建、それから産業やなりわいの再生、あるいは被災者の心のケアといった、早急に対応しなければならない課題も残っております。また、復興が1つ上の段階に進むと、また新たな課題が出てくるということで、そうした課題に対応するためにも、できるだけ時間の許す限り現地に足を運んで、現場の声に耳を傾けて、現場を見て、よりきめ細やかな対応をしてまいりたいと考えております。

現場がやはり一番大事だと、そして被災者の皆さんに寄り添う、この2つの基本姿勢を大事にして、これからも、非常に重い任務であると考えておりますので、しっかりと復興の完了に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

2. 質疑応答

(問) 小泉政務官は随分岩手のほうに、被災地のほうに入られましたけれども、もし日程があるのであれば、いつごろ、どのようなところに行って、どういうところに……。

(答) 早速、また来週岩手のほうに行きまして、沿岸部の北のほうの市町村を回る予定でございます。そして再来週も残りの沿岸部に入って、首長さん方と懇談を持つ予定でございます。

(問) 特にどのような課題意識を持って、今回は岩手に来られましたでしょうか。

(答) まず現場の、先ほど申し上げように、今、復興がある程度進んでいる中で更に新たな課題も出てきている。そういった課題をしっかりと把握して、どのような対応ができるか、復興庁の職員とともに取り組んでいくということでございます。

(問) 前任の小泉政務官は非常に現地にも足を運ばれて、今、首長さんの中でも「よく来てくれていたのに、何だ、変わるのかよ」というお声もどうやら

あるようでございますが、実際どういうふうに自分の色をこれから出していきたいかというのと、それからもう一つ、実際に現場に足を運んで、首長さんはもちろんあれだと思っんですけれども、実際どういうところに行って、どういう方に会いたいと思っっておられるかというのを具体的にお聞きしたいと思っいます。

(答) 小泉前政務官は若手のホープで、非常に注目を浴びた政務官だったわけですけれども、私は私なりに、先ほど申し上げた現場主義、被災者にしっかりと寄り添っていくという、この2つの基本方針をしっかりと堅持して、そういう意味では気負いはありません。私のできることを、この復興に向けてしっかりとやらせていただくということでございます。

先ほど申し上げたように、まずは各市町村、自治体の首長さんにお会いして、様々な御意見を伺いたいと思っのと同時に、また産業・なりわいの再生ということでは、業界の方とか企業の方とか、そういった方々のお話も当然伺いたいと思っっています。

(以 上)